

（株）CFPの廃プラスチック油化装置、ケープタウンに設置

11月4日竣工式を開催

南アフリカ共和国のケープタウン市の廃棄物分別処分場に、株式会社CFP（広島県福山市、以下CFP）の廃プラスチック油化装置の設置が完了、2016年11月4日に竣工式が開催されました。

式典にはケープタウン市の代表、日本側から廣木大使、JICA所長を始め、両国関係者約100人が集まり、両国代表の挨拶の後、CFP佐藤氏（油化事業海外営業部GM）から装置の説明が行われ、実際に油化装置から抽出した生成油をフォークリフトに入れて走らせると、参加者から大きな歓声が。両国関係者から盛んに謝意や期待の声が寄せられ、地元メディアの取材も入るなど現地の期待振りが窺われる竣工式となりました。



テープカットの様子



南アフリカ共和国で初めて抽出した生成油



廃プラスチックから製造した生成油

本事業は、廃プラスチックの洗浄機メーカー（株）カネミヤ（愛知県半田市）と、油化装置を開発したCFPの共同事業体による、「持続的廃棄物管理に向けた廃プラスチック燃料化技術の普及・実証事業※」として2014年3月から実施。今回導入した油化装置はCFP本社工場にて試運転後、南アフリカ共和国での環境許可、建築許可を取得後、2015年8月に神戸港を出港。9月末にケープタウンに到着し、1か月の据付・調整を経てこの度竣工式を迎えました。

南アフリカ共和国の廃プラスチックのリサイクル率は約18%と極めて低く、そのほとんどが廃棄物処分場に直接投棄されています。ケープタウン市は南アフリカ共和国で分別収集を行っている数少ない市の一つで、廃プラスチック油化装置導入により、ケープタウン市で持続的な廃棄物管理に向けたリサイクルシステムが構築され、南アフリカ共和国の環境問題改善への貢献が期待されます。

以上

※「普及・実証事業」は、JICAの中小企業海外展開支援事業の1つで、日本の中小企業が持つ製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証し、現地への適合性を高め、普及を図ることを目的としたものです。JICAはCFPと2014年3月に契約締結しました。本事業は途上国への貢献と共に、採択企業が所在する地元経済の活性化も期待されます。